

第2回 栃木県重症心身障害連絡協議会 ネットワーク研修会報告

地域医療連携室 MSW 永山悦子

平成25年11月21日、あしかがの森足利病院において県内4カ所の重症心身障害児者施設（あしかがの森足利病院・星風会病院星風院・なす療育園、当院）でつくる栃木県重症心身障害連絡協議会ネットワーク研修会が開催されました。

今回は4施設の他にNICU（新生児集中治療室）病棟を持つ自治医科大学・獨協医科大学・済生会宇都宮病院・足利赤十字病院より医師・看護師・MSW（医療ソーシャルワーカー）・PT（理学療法士）・OT（作業療法士）・ST（言語聴覚士）・児童指導員・保育士など約100名の医療従事者が参加されました。

初めにあしかがの森足利病院院長・看護部長から病院の概況説明があり、その後で平成24年2月に改築された重症心身障害児者病棟や通園センター・スヌーズレンルーム（多重感覚環境ルーム）・親子交流室等を見学しました。

入所者の障害に合わせた細やかな工夫が随所に見受けられ、新棟建設中である当院関係者は熱心に質問と見学を続けていました。特にスヌーズレンルームでは、光ファイバー・バブルチューブ・ウォーターベッドなどの貴重な感覚体験ができました。

次に小林靖明先生（足利赤十字病院小児科部長）より「当院における新生児医療の現状と重症心身障害児者施設との連携」について講演があり、「医療技術の進歩で救命出来る超低体重児や早産児が増えたが、重い後遺症を持つことが多いためNICU病棟は常に満床となっており、在宅支援やポストNICUとの連携が極めて重要である」との内容で、来年度増床（20床）となる当院への期待を強く感じるものでした。

最後の職種別分科会では、【看護】・【リハビリ】・【介護、療育】・【施設管理職、MSW】の4つの部会では各施設で抱えている問題について熱心な意見交換が行われました。

特にMSWにおいては、制度が複雑に変わり、病院・施設ともに正確な情報が確認出来ない現状であり、「今後は行政を含めた関係機関の連携が最重要課題である」との話合いがなされました。

今回の研修会を通じて、NICU病棟・新生児医療の現状や重症心身障害児者受け入れについての問題点、在宅支援も含めた他職種間の連携の重要性等が改めて認識されました。

最後に、お寒い中を駐車場から会場までスムーズに案内して下さったあしかがの森足利病院の職員の方々、また御多忙中にもかかわらず参加いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

